

月信 13 最終号の発刊に寄せて

国際ロータリー第 2790 地区
2005-2006 年度 ガバナー
山中 義忠

本号には、唯一の責務として、2005-2006 年度の決算報告が載って居ります。 会員皆様には是非御覧になって、次年度のクラブ運営の参考にして頂ければ幸甚であります。本決算は、2006 年 7 月 19 日の当地区監査委員会の御承認を得たもので、御蔭様にて僅か乍らも黒字決算と成りました。 これは正に各クラブの皆様が、I serve above self を実践して頂いた成果であります。 改めて厚く御礼申し上げます。

会員動向に就きましては、2006 年 7 月 21 日付最終報告にて、同年 6 月末 85 クラブ (2 クラブは当年度末で解散) 会員数 3 0 1 3 人で、- 59 人、昨年同期の - 88 人に比し、+ 29 人の挽回であります。 2008 年期末にはなんとか底を打つと推測されます。もし更なる会員増強により、次期白鳥ガバナー年度に、3000 人が維持されれば、それは即、予測より 1 年早く、会員減少の底打ち宣言となるでしょう。 一方、女性会員は、9 人純増の 1 2 2 人で、確実なる増加を示しております。 会員増強には、最早、女性が不可欠なのであります。

ノミネートされてからの 2 年 10 ヶ月、本当に多数の会員皆様から御支援、御指導を戴き、只厚く御礼申し上げます。 超我の奉仕は、愛と平和の実践、それが奉仕の理想と申し上げてきたことに、不遜な奴め と感じた方もいたようです。 地球生誕 46 億年その地球時間のなかでは、人間の優劣は紙一重の差も無く、人の一生は瞬き一瞬の時間にも満た無い、人の子として生まれる確率は分母が天文学的数字である。 ロータリアン相互の中で、他のロータリアンを公然と批難、批判、攻撃、する輩は、頼みもしないのに何故この俺生んだと親に喚く、餓鬼にも値しない。 倫理だ、哲学だと云う前に、ロータリアンは、人間個人の命と人権に対する尊厳と、何故その個人を守り、侵してはならないかを、入会の時既に知っていなければ、入会の資格は無いのです。 自分を人の子に生んでくれた女性を軽侮する輩に、愛はわからないし、 人命を無視する輩に、平和は解からない、争いは当然だとする輩は、必ず、平和を生む方策を知らないのです。

愛と平和というと、性愛と衆愚としか理解出来ない人々、彼らは澄んだ子供の眼に無関心である。 愛と平和は不遜ではない、ロータリアン自身の尊厳でありましょう。2005-2006 年新世紀年度を終えるに当たり、以下の如き拙句を献上もうしあげます。

吾が愛は 誹謗を超えて 澄み渡る

吾が愛は 氷峰を超えて 澄み渡る

有難う御座いました。